



2025年7月17日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 オ キ サ イ ド  
代 表 者 名 代表取締役社長(COO 兼 CFO) 山 本 正 幸  
(コード番号：6521 東証グロース)  
問 合 せ 先 執行役員(CSO)企画本部長 竹 内 健 吾  
(TEL. 0551-26-0022)

### 2026年2月期 第1四半期 決算説明会の質疑応答（要旨）について

当社は、昨日決算説明会（アナリスト・機関投資家向け）を開催いたしました。ご出席の皆様からいただいた主なご質問を以下にまとめております。なお、理解促進のため、一部加筆修正を行い要旨として記載をしております。

- Q. 研究開発費が予想を1.27億円上回っています。これは新たな投資でしょうか、それとも会計上の理由ですか？通期の費用計画への影響も教えてください。
- A. これは会計上の費目分類を見直したことによるもので、実質的なコスト増ではございません。具体的には、当四半期で製造原価に計上する見込みでございました製品化に向けた試作フェーズの費用について、より実態に即した会計処理を行うため、研究開発費として計上することといたしました。この見直しによる、通期の費用総額への影響はございません。
- 短期的な利益を最大化するという観点では、研究開発費の削減も一つの選択肢ではあります。ただし、最先端技術を取り扱う当社にとって、中長期的な成長の実現には研究開発活動が不可欠であると考えています。今後も、財務の健全性ととのバランスを保ちながら、継続的な研究開発投資を行ってまいります。

Q. SiC 業界では、EV 市場の成長鈍化や米 Wolfspeed 社の民事再生、中国企業の台頭など、業界全体業界を取り巻く環境に不透明感が広がっています。また、さらにオキサイドが昨年業務提携を発表した JS ファンダリ社も 7 月 14 日に破産申請を行いました。こうした市場環境の変化が、オキサイドの SiC 事業に与える影響や今後の戦略についてお聞かせください。

A. ご指摘の通り、SiC 業界は EV 市場の需要減退や価格競争の激化などによる調整局面を迎えています。こうした背景の中で、米 Wolfspeed 社の民事再生や、JS ファンダリの破産申請といった事例が相次いでおります。

ご懸念の Si パワー半導体のファウンドリである JS ファンダリ社の破産申請につきましては、当社グループは同社を含む複数のパートナーと連携しており、SiC ウエハ加工やエピタキシャル工程における協業体制は冗長性を持たせて構築しております。そのため、JS ファンダリ社の破産申請による開発スケジュールへの影響は極めて限定的であり、現時点で事業計画を見直す必要が生じるような影響は想定しておりません。また、JS ファンダリ社との間に債権債務関係はなく、財務面への影響はございません。

このような SiC 市場競争が激化に加え、最近では中国によるレアアース輸出規制の強化など、地政学的リスクも高まりつつあります。SiC に関しても、中国メーカーの存在感が増す中で、将来的な供給制約への懸念が国内外で高まっています。このような状況において、国産 SiC ウエハの安定供給体制の構築は、産業界において喫緊の課題となっております。

当社が開発を進めている「溶液法 SiC」は、こうした地政学リスクを見据えた取り組みの一つです。原料から結晶成長・加工・エピタキシャル工程までを、日本国内で完結できる体制を構築することは、経済安全保障の観点からも高い戦略的価値を有すると考えております。さらに、当社の「溶液法 SiC」は、結晶の高品質特性を活かし、EV 向けの中耐圧領域ではなく、直流送電、鉄道、重電分野などで用いられる超高耐圧領域をターゲットとしており、独自のポジショニングにより他社との差別化を図っています。今後もこうした強みを活かしながら、持続的な成長と中長期的な事業展開を進めてまいります。

Q. ヘルスケア事業について、前回の決算説明会では高性能 PET トップメーカーへの出荷が今後期待されるとのご説明がありましたが、現在の出荷状況と今後の販売拡大の見通しについてご教示いただけますでしょうか。

また、2026 年 2 月期第 1 四半期の実績には、前期からの期ずれ分も含まれているとのことですが、第 1 四半期分との内訳についてもご教示ください。

A. 第 1 四半期より、計画通り高性能 PET のトップメーカーへの出荷を開始しており、当社製品に対して高い評価をいただいております。第 2 四半期以降も出荷数量を順次拡大していく予定であり、本件は今期のヘルスケア事業の成長を力強く後押しする重要な要素になると見込んでおります。

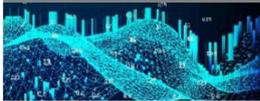
なお、第 1 四半期の売上実績には、前期第 4 四半期からの期ずれ分が含まれておりますが、期ずれ分と当期分の具体的な内訳については非開示とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

- Q. オキサイドは、量子暗号通信事業を展開していると認識していました。最近では、量子暗号通信だけではなく、株探等で量子全般を取り扱う銘柄として取り上げられていました。量子コンピュータとも何か関係があるのでしょうか。
- A. 量子技術は、「量子コンピュータ」「量子暗号通信」「量子センシング」の3つの領域に分類されています。現在、世界中でその研究開発と実用化が加速しています。
- 当社は、波長変換素子や量子光源モジュール、レーザー光源の提供を通じて、これら3つの領域すべての研究開発に貢献しています。
- 特に、高品質な単結晶の開発力と、その結晶を用いた幅広い波長領域のレーザー光を発生する「波長変換技術」は、量子分野に不可欠な技術であり、世界的に高い評価を受けています。

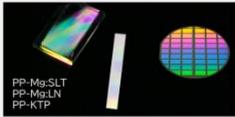
## 新領域 | 量子分野に貢献するオキサイドの技術

**OXIDE**

- 量子技術は、「量子コンピュータ」「量子暗号通信」「量子センシング」の3つの領域に分類されています。
- 当社は、波長変換素子や量子光源モジュール、レーザー光源の提供を通じて、3つの領域の研究開発に貢献しています。
- 高品質な単結晶を用い幅広い波長域のレーザー光を発生する波長変換技術は世界的に高い評価を受けています。

量子コンピューティング	量子暗号通信	量子センシング
		
革新的な高速 計算サービスの実現	高セキュリティ 高速通信の実現	高精度センシングの実現

量子関連の応用に利用されるオキサイド製品		
		
波長変換素子 PP-Mg:SLT PP-Mg:LN PP-KTP	量子もつれ光子対光源モジュール	量子コンピューティング用レーザー

Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

14

量子コンピュータの実用化上の重要な課題の一つが「エラー訂正機能」です。

エラー訂正に優れた方式として現在注目されている方式が「イオントラップ方式」と「中性原子方式」です。いずれの方式でも、安定性の高い複数の波長のレーザーが必要不可欠であり、レーザー光の精度が量子計算の信頼性を大きく左右します。

たとえば、Yb（イッテルビウム）やRb（ルビジウム）といったイオンや原子を操作するためには、それぞれが吸収する特定波長の高精度レーザーが要求されます。当社の光学結晶と波長変換技術は、こうした高品質・多波長のレーザー光を安定して供給できることで、量子コンピュータの研究開発に貢献しています。

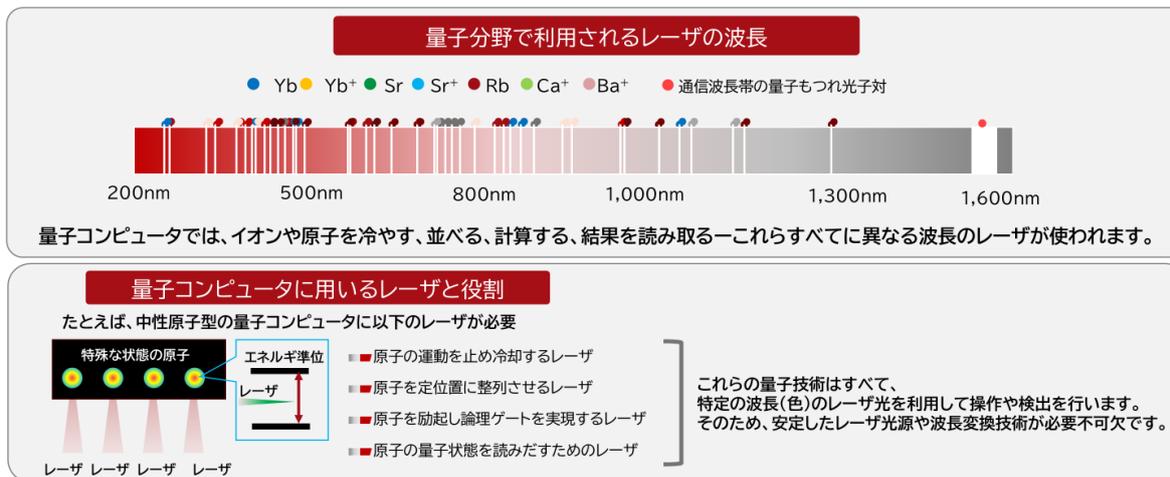
さらに、量子暗号通信や量子センシングの分野でも、量子もつれ光子対のような特殊な光を高効率に生成する技術が必要であり、当社の技術が幅広く活用されています。

当社は「量子技術を支える光の専門企業」として、今後もこの成長分野での存在感を一層高め、グローバル市場での展開を加速してまいります。

## 新領域 | 量子分野に貢献するオキシドの技術

OXIDE

■ 量子コンピュータの重要な課題の一つが「エラー訂正機能」です。エラー訂正に優れた方式として、イオントラップ方式と中性原子方式が注目されています。どちらの方式も高い安定性を有する複数のレーザーを使用します。オキシドの波長変換技術はこの高品質レーザーの供給を可能にします。



Copyright: 2025 OXIDE Corporation. All Rights Reserved.

15

- Q. 営業損益について、赤字幅が狭まり、上向きと理解しています。この理由についてもう少し具体的に教えてください。例えば、どの事業領域でどう改善があったかなど、お教えてください。
- A. 営業損益の改善については、主に半導体事業における生産性向上が寄与しています。前期第1四半期は、前々期からの一部部材不具合問題を引きずり、不具合部材を搭載した製品の無償修理対応に一定のリソースを割かざるを得ない状況でした。しかし、今期はこの不具合問題が完全に解決したことで、無償対応ではなく、有償での製品出荷やメンテナンスにリソースを充てることが可能となり、生産性が大幅に向上しました。また、当期第1四半期では、利益率の高い新領域事業の売上が増加したことが、全体の利益向上に寄与しました。さらに、半導体事業およびヘルスケア事業を中心に、第2四半期以降の売上増加に備えた在庫の積み増しも、利益改善に貢献しています。
- Q. 四半期毎の売上予想では、第1四半期はもともと保守的な数字でした。その保守的な予想を下回った理由と、第2四半期も含めた上半期で挽回ができるのか、お教えてください。また、半導体事業については、一部エンドカスタマーの業績不透明を踏まえた予想と理解しておりましたが、そちらの状況に変化はありますか。
- A. 第1四半期の売上実績が予想を下回った理由は、半導体事業およびヘルスケア事業における若干の下振れが原因です。ただし、第2四半期でこのマイナス分をリカバリーし、上半期全体としては予想を達成できる見通しです。半導体事業の一部エンドカスタマーの業績については、顕著な回復が見られる情報はありますが、若干の回復見込みと伺っていますので、第3四半期以降の需要増加に期待しています。

Q. 昨年第1四半期の決算説明会において、注力分野としてパワー半導体や量子のご説明がありました。1年経ちまして、それぞれ進捗について教えてください。

A. パワー半導体分野においては、溶液法 SiC はほぼ計画通りに開発が進捗しており、現在はユーザーへのサンプル出荷を開始しています。当社の溶液法 SiC は、高耐圧分野を中心に製品開発を進めており、ユーザーからのフィードバックを受けながら、さらなる改善を進めています。また、別のパワー半導体材料である酸化ガリウムについても着実に進捗しており、直径4インチのインゴット開発に成功し、サンプル出荷を開始しています。

量子分野においては、量子もつれ光子対モジュールの開発が進展しています。このモジュールは、量子コンピュータ、量子暗号通信、量子センシングの3分野すべてに適用可能な製品です。特に、量子通信向けでは、複数の最先端研究開発機関へ納入し、高い評価を受けています。今後の追加受注が期待されます。

以上